

軽量手動式シャッター取扱説明書

《 お客様のお手元に必ず保管してください。》

目 次

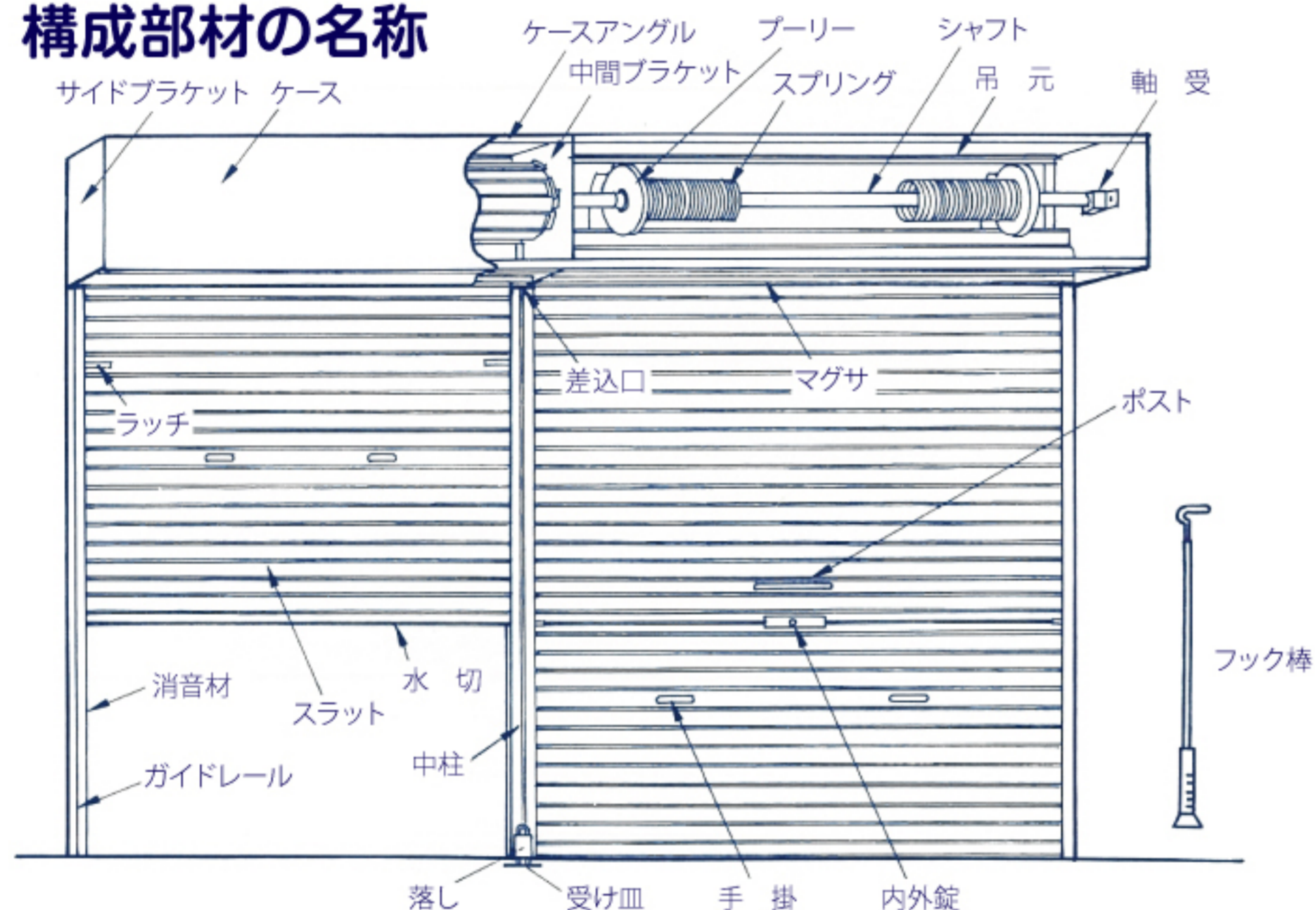
- 1 構成部材の名称
- 2 開閉方法
- 3 取扱い上の注意事項
- 4 保守点検及びメンテナンス

軽量手動式シャッター

このたびは、当社のシャッターを
ご採用いただきありがとうございました。

より安全に、末永くお使い頂くために
この取扱説明書をよくお読みの上、正しくご利用くだ
さいますようお願い申し上げます。

1 構成部材の名称



軽量シャッターは、ケース（又は天井）内の巻取りドラムにコイル
スプリングを仕込み、その反発力とスラット全重量とのバランス
をとり、手で軽く開閉できる最もポピュラーなシャッターです。
しかし、スラットの強度及び重量的に限度があるため間口の広い
建築物は中間に中柱を立て何連かに分割して使用します。

いつも正しいシャッターの操作をする習慣をつけましょう。
それがシャッターを長持ちさせる秘訣です。

2 開閉方法

開ける時

内外錠にキーを差込み180度回して解錠して
ください。

⚠ 注意
キーは完全に最後まで回し、全開にして
ください、中途半端ですと開閉が困難に
なり、故障の原因になります。

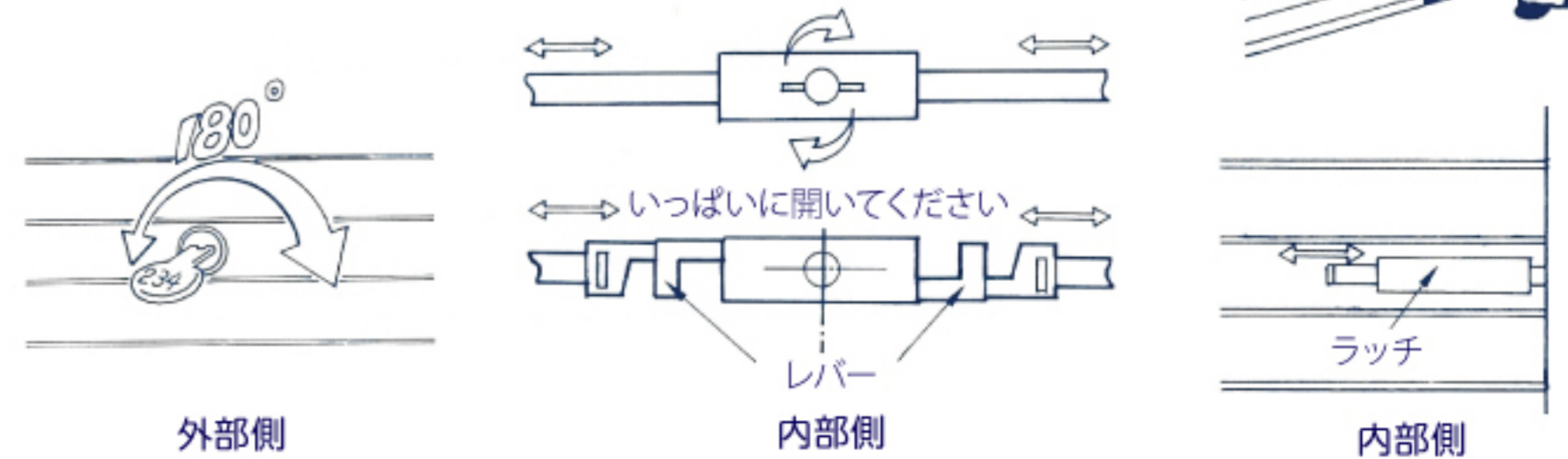
スラットの中間位置に取付けられた手掛に手
を掛けて上に押し上げてシャッターを開けま
す。開口部の高いシャッターは途中よりフッ
ク棒を使ってゆっくりとマグサまで上げてく
ださい。

閉める時

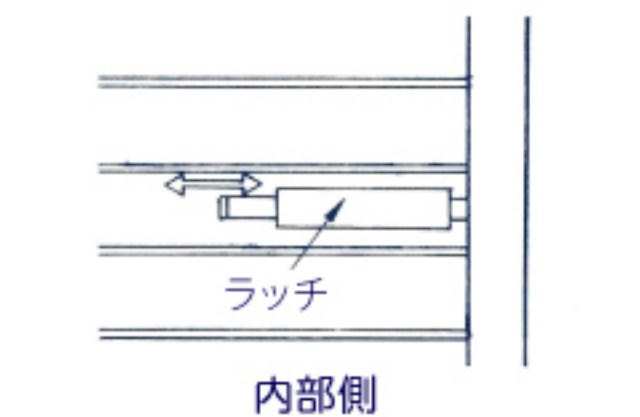
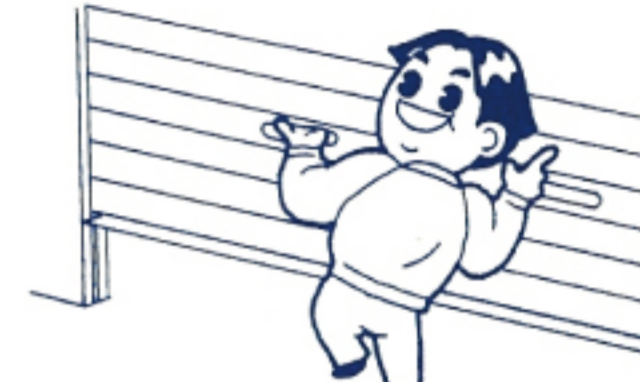
2連以上に分割されているシャッターの場合
はまず中柱を固定します。
次にフック棒を用いて水切の穴に引掛け、
シャッターを引き下げて閉めます。

施錠

シャッターを閉めた後、スラット中間の内外
錠を掛け戸締まりをします。
内外錠の操作は、外部からの施錠はキーを差
込み 180度回せばロックが完了 します。
内部からは錠本体のレバーを横移動又は回転
させるとロックできます。



ラッチの場合は左、右に押し込むとロックされ、引き出すとロックがはずれます。



3 取扱い上の注意事項

●開閉操作時の注意事項

①シャッター閉鎖時の確認

シャッターを閉める時は、必ずシャッターライン上に障害物のないことを確認してください。

シャッターを閉める時、シャッターの端の方に手を掛けて閉めると、スラットが斜めの状態になり引っ掛かることがあります。シャッターの損傷につながりますので必ず真中又は左右を同時に持って閉めてください。

②開閉操作時の心得

シャッターの開閉操作は、手荒く一気に上下させないでください。

開ける時、上部マグサにはげしく当てたり、閉める時床にはげしく当てたりしますとシャッターはもちろん建物も損傷することがあります。必ずフック棒を使ってゆっくり静かに開閉してください。

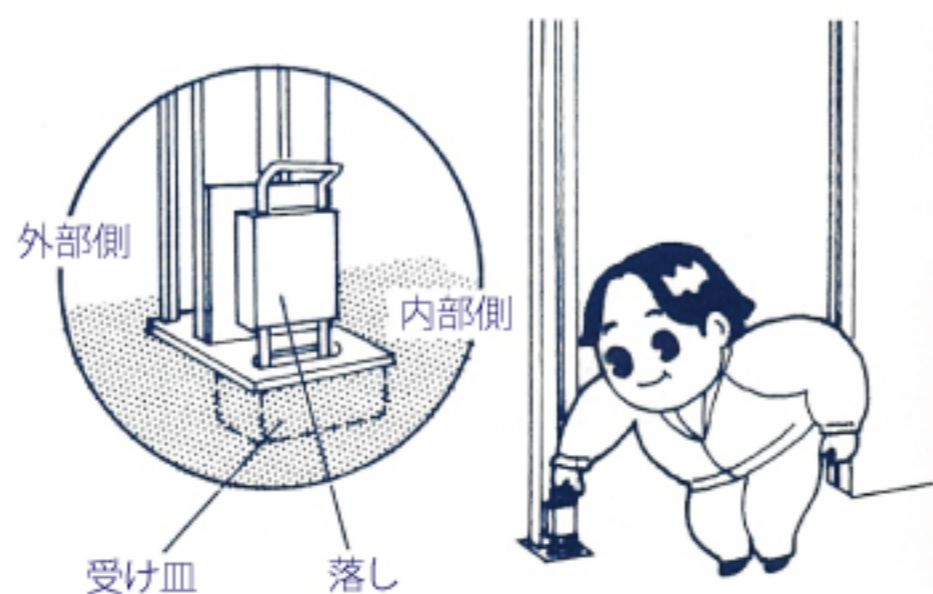
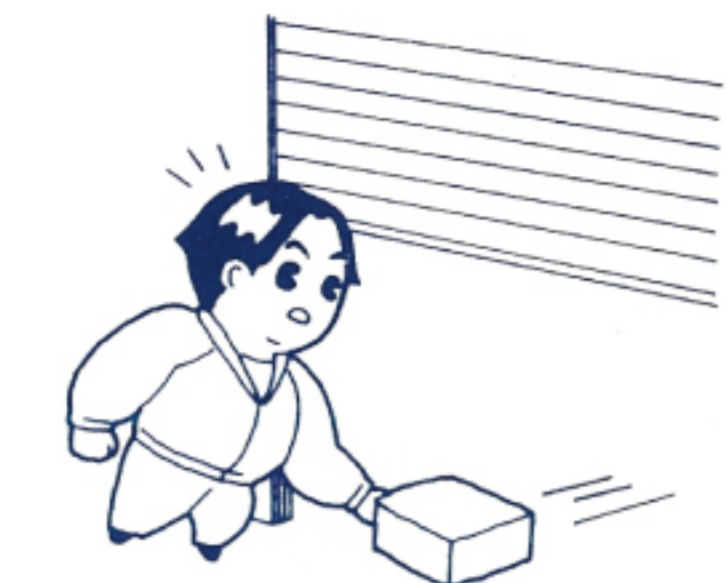
●中柱の固定方法

①中柱上部の差込み

中柱上部を固定する場合、上端を方立差込み口に確実に差込んでください。

②中柱下部の固定

中柱下部を固定する場合、落しを受皿の差込み穴に完全に差込んでください。差込みが不十分ですとシャッターがスムーズに開閉できなかつたり、強風などで外れることがあります。



●内外錠の操作

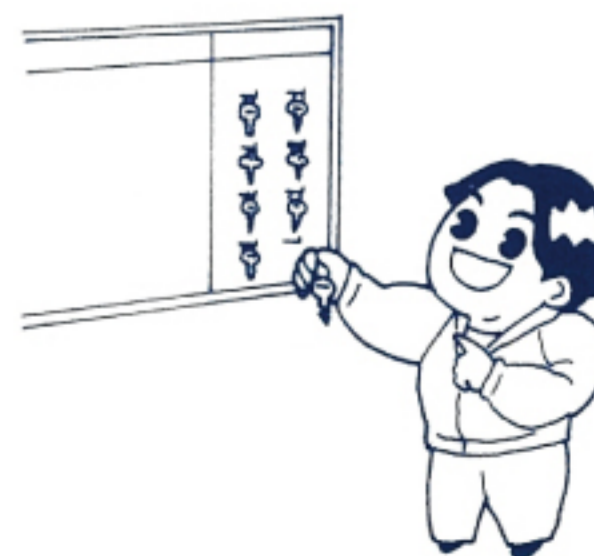
①操作時の確認

内外錠を操作するときはシャッターが床面まで完全に閉まっていることを確認してください。

物をはさまったまま閉まっていたり、不完全な閉まりのまま無理にロックすると、施錠が完全に行なわれず、又キーが曲がったり折れたりすることがあります。

②操作後の心得

内外錠を施錠又は解錠した場合、キーは必ず抜いて所定の場所に保管してください。



⚠ 注意

キーを無くしますと急には手配することが出来ない場合がありますのでご注意ください。

●清掃

①ガイドレールの清掃

ガイドレール下部の底にゴミなどがたまると、シャッターが完全に閉鎖せず、錠が掛からなくなりますので時々確認し清掃してください。



②錆の発生防止

スラットやガイドレールに泥、ほこりなどが付着しますと、錆の発生を早めます。

汚れのひどいときは、雑巾などできれいにふきとってください。



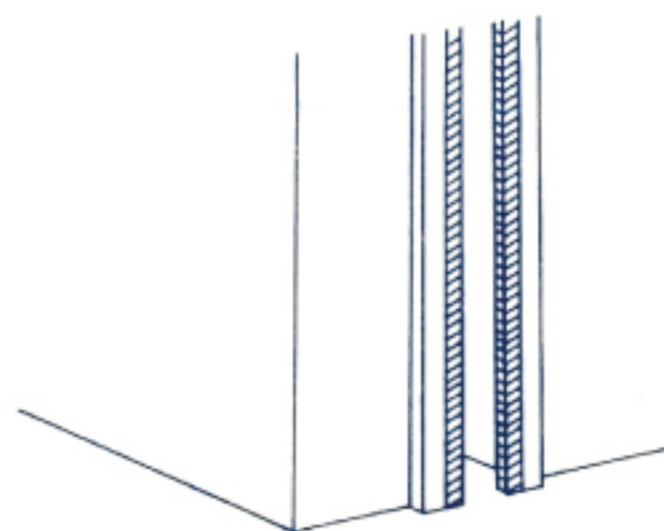
③受皿の清掃

中柱の受皿は、時々点検して泥などを取り除いてください。泥がつまって落しの掛かりが不完全ですとシャッターが外れることがあります。



●ガイドレールの潤滑オイル

ガイドレールのすべりを良くし、摩擦音を少なくするためにスプレー式潤滑オイルをご利用ください。なおモヘア付のガイドレールの場合はオイルは必要ありません。



4 保守点検及びメンテナンス

シャッターの部材は永久的に使用できるものではありません。長い間使用したり、長期間手入れせず使用しますと機能が悪くなる場合があります。

軽量シャッターの場合は、巻取りドラム内のスプリングの劣化や、ガイドレールに付いている消音材（ビニール、モヘア）の摩耗、破損等が発生します。

建築物に設置されたシャッターは普段から維持管理があつてこそ、正常な機能を保つことができます。朝晩の開閉時の故障や急なトラブルを未然に防止するためにも、保守点検の実施をお勧めいたします。

▲ 警告

シャッターの巻取りシャフトには強力なスプリングが仕込んでありますので、不用意に触れると大怪我をすることがあります。

シャフト、プーリー、スプリング等駆動部分及び吊元、ブラケット等には絶対に手を触れないでください。

シャッターに関する疑問点や異常がある場合はメーカー又は販売店に御相談ください。